

二〇二二年五月二八日

どくだみにしとど雨ふる業平忌
黙々と園丁の背は汗まみれ
かたつむり昼目ほどの歩みかな
大鳥居潜りて蝶は高空へ
雨に憂し未央柳の長き蕊

素 秀
たか子
みきお
智恵子
たか子

二〇二二年五月二七日

大口がシャッターチャンスさくらんぼ
セコイヤの並木映して池涼し
大岩に光を置くや初蛭
口開けて落つこちさうや燕の子
雨晴れて蜘蛛囀に銀の玉雫
どの色も雨に似合ひて七変化

あひる
はく子
素 秀
満 天
凡 士
宏 虎

二〇二二年五月二六日

雑草に見え隠れすは蛇莓
亡き父母に句集供へて聖五月
ワクチンの接種は薔薇の診療所
娘と歩くバージンロード聖五月
川上の藪のほひや初蛭
カーテンに透けて明るき薄暑光
夜神楽の姫舞ふ人の喉仏

ぼんこ
たか子
あひる
宏 虎
豊 実
せいじ
みきお

二〇二二年五月二五日

ざりがにのはさみ振り上ぐ溝浚へ
朝礼の声とどきくる若葉風

なつき
満 天

二〇二二年五月二四日

夏空へ機首を上げゆく機影かな
大和路の日毎に増ゆる代田かな
早々に終へる会議や田植時
甘藷植う小石混じりの父の畑

たか子
明日香
こすもす
なつき

二〇二二年五月二三日

地について初生り胡瓜曲がりけり
消灯の厨に匂ふらつきよ漬
窓開けて植田の風を招きけ
借農園苗譲りあふ夏帽子

なつき
なつき
素 秀
そうけい

二〇二二年五月二二日

らつきようの輝く白を漬けにけり
暮れのこる代田を掠め燕飛ぶ
帰省子の十六文の靴並ぶ
薫風に駆ける金髪少女かな
登校の列とりどりに梅雨の傘
里の風とらえはじめし稲の花
駅舎抜けホーム突つ切る夏つばめ

ぼんこ
なつき
みきお
もとこ
こすもす
みきお
凡 士

毎日句会みのる選・二〇二二年五月三〇日